

「第 17 回因州和紙あかり展」入賞作品選考審査結果

日時 令和 3 年 1 月 1 3 日（水）

午前 1 0 時～午後 2 時

場所 鳥取市あおや和紙工房

審査員長 石谷 孝二 氏（鳥取大学名誉教授）

審 査 員 山ノ内芳彦 氏（木工・灯り作家）

審 査 員 秋吉 保久 氏（現代の名工／抄紙工）

■総 評

一般部門には県内外より 35 点、ジュニア部門が 50 点の計 85 点の作品が集まった。大賞は小品ながらもユニークな形態で和紙の魅力を引き出した作品と評価された。

準大賞・佳作には特色ある持ち味を出すことに成功した作品が選出された。

和紙や紙の持つ特色を生かしながら日々の生活の中の糧となるような創意ある意欲作を期待したい。

■一般部門 講評



大 賞 【瀕死の白鳥】

竹歳 真帆（鳥取県倉吉市）

かごをつくる「コイリング」という技法でつくられたユニークな形態の作品である。斬新な発想であるが自然界の中にある形にも見えるため質感とあいまって愛すべき作品となっている。中央付近の青のグラデーションもアクセントになっており成功している。



準大賞 **【フル・フル・ル】**
田淵 萬坊（東京都板橋区）

かまぼこ型のふくらみの紙の上部に切れ込みを入れ、それぞれの先端部分が自然に落ちる効果を生かしている。光の骨のようなデザインである。少しずつ変化しながら落ちる紙によって光の微妙な違いを楽しむことができる。



佳 作 **【藍のランプシェイド1】**
智頭農林高等学校 生活環境科
生活デザインコース（鳥取県八頭郡）

濃淡のある藍の紙でシンプルな球体をつくり、濃い藍色の糸を巻いてアクセントをつけている。3点連作でそれぞれ工夫されているが一番まとまりのある本作が選定された。



佳 作 **【蓮下の鯉】**
福原 実（兵庫県川西市）

黒の中に蓮と鯉があざやかに浮かび上がり、目を引く作品である。技術的にも優れておりよくまとまった作品である。箱の完成度が高まればさらに良くなると思われる。

■ジュニア部門 講評



入 賞 【彼岸花】

小坂 華子大（鳥取市立青谷中学校）

シンプルな形だが和紙の貼り方が工夫されており、あえて切らないところが効果的である。



入 賞 【無題】

横川 夏帆（鳥取市立青谷中学校）

小さいながらよくまとまった作品である。色味も光と良くあっていて成功している。



入 賞 【コロナに勝つ】

村中 悠海（鳥取市立青谷中学校）

内と外の二重構造を持つ作品である。企画力が優れ、淡い光の魅力が出ている。

■あおや和紙工房賞（鳥取県内の応募作品対象）



入 賞 【たおやかな鷲峰山と花々】

福本 喜久子（鳥取県鳥取市）

初出展ながら、書と色和紙の配合が評価された。本来三部の連作の一つとして位置付けられるが、力作のセンターを飾るにふさわしい華やかさのある作品。



入 賞 【森のなかまたち】

関 佐恵子（鳥取県米子市）

ゲームソフト「あつ森」を想わせる、明るく賑やかな楽しい空気感を、和紙と灯りで優しく表現されていて、見る人に微笑みを届けられる作品。